

## 株式会社オプトラン

### 個人投資家向け説明会(2021年12月4日開催) QA サマリー

Q1：御社の強みは何か。

A1：当社の強みは、ソリューション提供型ビジネスモデルです。

当社装置は、グローバルな研究開発活動に基づいた高難易度の技術を反映し、キーコンポーネントは自社開発している。また、設立当初から顧客企業の近くに開発・生産拠点を設けることで、綿密なコミュニケーションにより顧客ニーズを把握し、開発に繋げてきた。

さらに、客先に装置設置後もフル稼働に至るまでのソリューション提供も重視してきた。光学薄膜は単位がナノメートルの微小な世界で、顧客ごとに異なる仕様を実現するためには、成膜プロセスが非常に重要であり、当社には設立当初から行ってきた成膜実験によるデータやソリューション提供による経験の蓄積があり、これらが当社の強みとなっている。

Q2：光学薄膜装置市場におけるシェアは？

A2：当社は、現在光学薄膜装置事業の売上では、業界 No.1 であり、当社はだいたい市場シェア 3 割程度であると見込んでいる。

Q3：新型コロナウイルスが感染拡大していることや、世界的な半導体不足の影響は？

A3：新型コロナウイルスの影響は少ない。当社の生産面でも、引き続き、徹底したコロナ対策を行っている。

2021 年 3Q の受注は、引き続き、半導体チップ不足により、スマートフォン・監視カメラ等のお客様の生産に影響が及んでいる。半導体不足が長期化する懸念はあるが、スマートフォンの広角レンズやミニ LED 向けの ALD 装置を中心に回復の方向に向かっている。

Q4：株主還元を含む株主還元の考え方は？

A4：当社は、まず研究開発や、技術獲得を主眼とした出資・買収を含む投資を通じて、更なる成長を実現していくことを重視している。

株主還元につきましては、配当性向を連結当期純利益の 30%程度とすることを基本方針としている。

また、株主優待は行っておりませんが、株主様への利益還元には十分配慮して事業運営を行っているので、ご理解をお願いします。

Q5：今後の研究開発項目は？

A5：今後の新たな成膜技術の可能性としては、半導体光学融合の拡大が有望です。当社としては、成膜技術と新たに実用化したエッチングにより、半導体光学融合の動きの機会を最大限取り込んでいく。

例えば、AR/VRは、北米を中心に、光学成膜やエッチングのニーズの関心が強く、それに対応した装置開発をしている。また、5Gに関連するRFフィルターも中期的な成長分野である。また、北米スマートフォンメーカーとは、2022年以降の新たな機能に対応する複数の開発プロジェクトが進行中である。

さらに、国内大学と光学薄膜技術を応用し、微生物やウイルスの識別機能を発揮するために共同開発している。

Q6：半導体光学融合とは？

A6：光学融合という言葉は、当社にとって、ビジネスの今後の広がりを示すキーワード。半導体光学融合とは、半導体生産において、半導体デバイス上で光学成膜を一体で行うことで、顧客の生産が効率化するメリットがある。これらのアプローチは、MEMSやLED等でも応用可能。

Q7：売上が下がっているが、今後の見通しは？

A7：今年の売上は、お客様の側で半導体不足の影響がでた。足元では、スマートフォンの広角レンズ等で回復が見えてきている。

今後の成長としては、スマートフォンも出荷台数という観点では成熟してきたが、スマートフォンの高機能化のニーズは多くある。これに加えて、5Gの進展に伴って、AR/VR、車載、バイオセンサー等、多方面にわたる成長が期待できる。

Q8：将来的にはどのような会社でありたいと思われませんか？

A8：当社は常に技術的に最高水準の光学薄膜装置を開発・生産し、お客様のニーズにグローバルに答えてきた。光通信・デジタルカメラ・LED・スマホそして車載、IoT、など、最終製品市場は、半導体光学融合の動きの中、変遷し拡大を続けている。

それに合わせ、光学薄膜に加えてエッチング等のプラスアルファの新技术を用いて、常に最先端成膜技術を開発し、総合的な成膜ニーズに応えながら、事業拡大を実現して行く。

Q9：営業利益率が高い理由は？

A9：当社は設立以来、付加価値の高い高難易度の新型装置を常に市場に先駆けてリリースしてきた。これにより、当社の利益率は高く推移している。

以上